

創刊号

子どもがまんなかの社会の実現をめざして

こころのねっこ

* cocoro no nekko * Vol. 1



こころのねっこ

次号もおたのしみに！

◎ この冊子・私立幼稚園に関するお問い合わせ

モバイルサイトは
こちらから



公益社団法人 京都府私立幼稚園連盟 親子関係研究所

〒600-8424 京都市下京区室町通り高辻上る山王町561番地京都私学会館内
TEL:(075)344-0771 FAX:(075)344-4177 <http://www.kyoshiyoh.com/renmei/>

京都府私立幼稚園連盟



京都の私立幼稚園の子育て情報誌



* こころのねっこを 育てよう。

毎日、子どもと向き合っている、お父さん、お母さん。

子どもって可愛い！子育てって楽しい！と思いながらも時には疲れたな、

どうしたらいいの？と壁にぶつかることもあると思います。

あなただけが悩んでいるのではなく、自分を育ててくれた親や

周りの先輩ママ、子どもを持つ親みんなが、悩んだり迷ったりしながら

子育てをしています。悩むということは子どものことを大切に考え、

一生懸命子育てをしている証拠です。子育ては「これが正解！」という

道筋はありません。子どもたち一人ひとりの道を大切にし、

自分たちのペースで歩いてください。

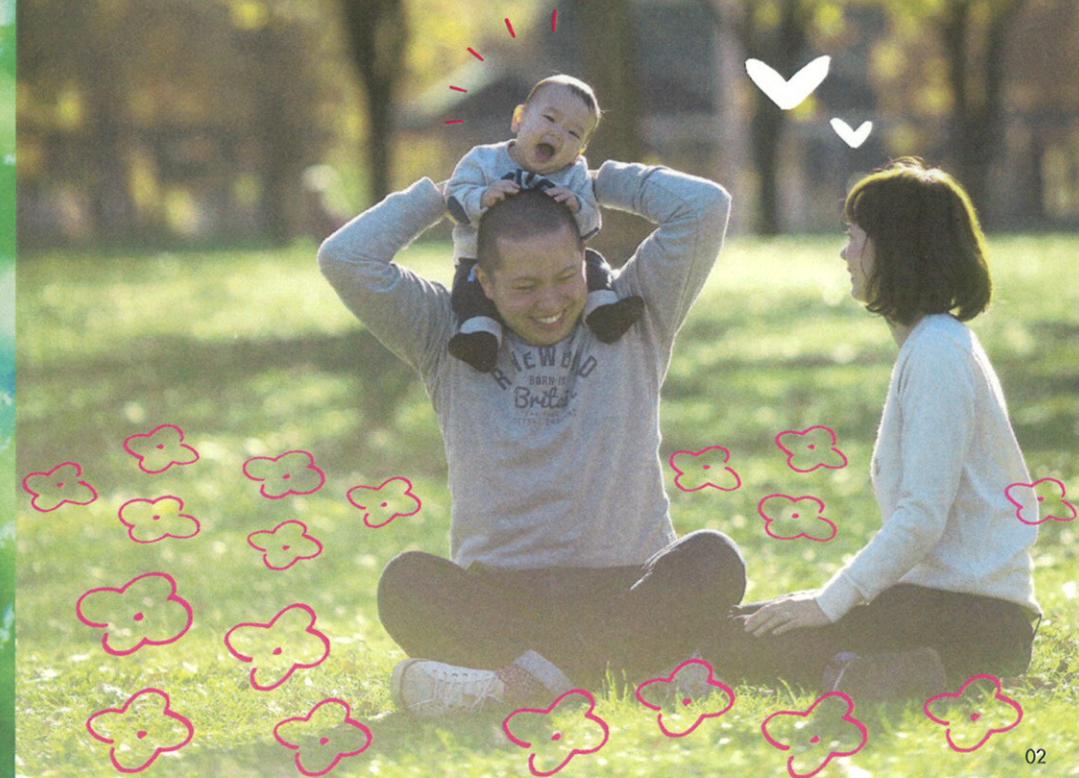


子どもたちの思いを大切に、
家庭のペースで子育てすれば大丈夫。
たまには外で思いっきり遊んだり、思い切って
何もしない日をつくったりしながら、子どもとの
時間を楽しみましょう。当たり前のようですが、子ども
が生まれたら誰もが急に親になれるわけではありません。おじいちゃんやおばあちゃんの世代、親戚、そして
地域の人々に支えられ、子どもからも色々なことを
学びながら親になっていきます。一人の力では親
として育つことは難しく、家族や社会全体の
サポートを受けながら、子どもとともに
お父さん、お母さんも成長して
いきましょう。

だい
じょうぶ

こどもがみんなか

私たち大人もみんな子ど
もの時代がありました。子どもた
ちが遊びやすい・親が子育てをしやす
い環境づくりのために、すべての人が
子どもに关心を持ち、子どもの立場からモノを
発想する。そんな社会の実現を目指し、みん
なが子育て中のお母さん、お父さんに少し
でも良いので寄り添い支え合うように。
社会全体、みんなで子どもたちの
“こころのねっこ”を育てて
いきましょう。



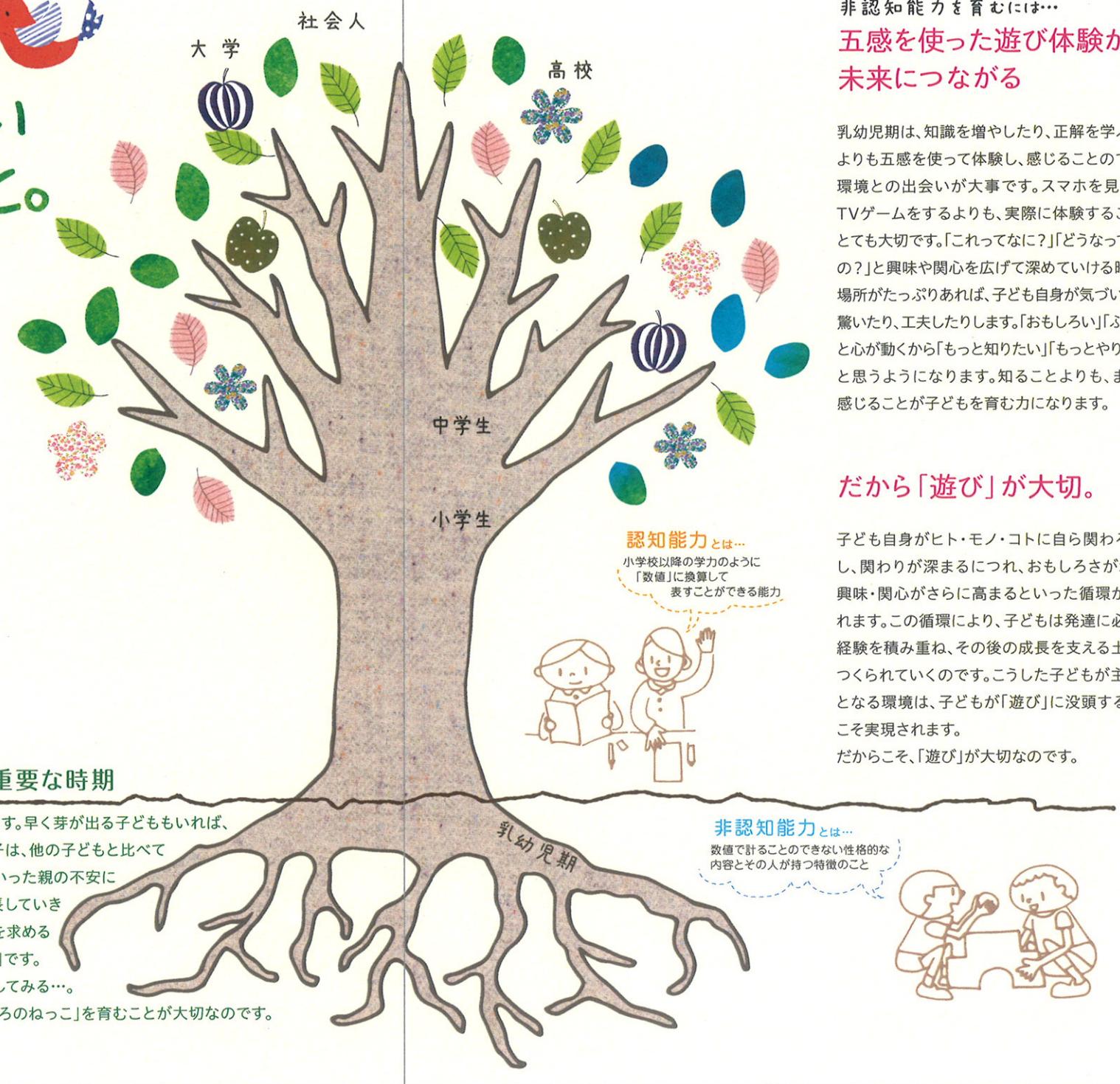
乳幼児期に育てておきたいこと。

目に見えない力 =非認知能力を育てる

想像力・創意工夫する力・探究心や表現力・協調性・思いやり・意欲・積極性・乗り越える力・粘り強さ…、これら目に見えない力を非認知能力といいます。逆に「認知能力」と呼ばれるものは読み書き計算、知識など数値化できるものなので主に小学校以降の学習を通して育つ力です。「非認知能力」が基盤となって、その上に「認知能力」が積み重なって育つので、乳幼児期には見えない「非認知能力」を育てることが非常に重要なのです。

乳幼児期は、ねっこを育てる重要な時期

子どもたちは一人ひとり、違うタネを持っています。早く芽が出る子どももいれば、時間をかけて芽を出す子どももいます。うちの子は、他の子どもと比べてどうなのかな?子育てはこれでいいのかな?といった親の不安に関わらず、子どもたちは自分のペースで日々成長していきます。「目に見える力」も大切ですが、焦って結果を求めるよりも乳幼児期に大切なのが「目に見えない力」です。意欲的に取り組む、相手を思いやる、創意工夫してみる…。子どもたちの成長には、人間としての土台「こころのねっこ」を育むことが大切なのです。



非認知能力を育むには…
五感を使った遊び体験が
未来につながる

乳幼児期は、知識を増やしたり、正解を学ぶことよりも五感を使って体験し、感じることのできる環境との出会いが大事です。スマホを見たり、TVゲームをするよりも、実際に体験することがとても大切です。「これってなに?」「どうなっているの?」と興味や関心を広げて深めていく時間と場所がたっぷりあれば、子ども自身が気づいたり、驚いたり、工夫したりします。「おもしろい」「ふしぎ」と心が動くから「もっと知りたい」「もっとやりたい」と思うようになります。知ることよりも、まずは感じることが子どもを育む力になります。

だから「遊び」が大切。

子ども自身がヒト・モノ・コトに自ら関わろうとし、関わりが深まるにつれ、おもしろさが増し、興味・関心がさらに高まるといった循環が生まれます。この循環により、子どもは発達に必要な経験を積み重ね、その後の成長を支える土台がつくられていくのです。こうした子どもが主人公となる環境は、子どもが「遊び」に没頭する中でこそ実現されます。

だからこそ、「遊び」が大切なのです。

* ASOBI ha EIYO *

遊びは、 人を育てる 栄養になる。

遊びを通じて学ぶこと、身につけることは想像以上にいっぱいです。子どもたちの遊びは、子ども時代だけでなく、大人になってからも影響します。



大人の遊び ≠ 子どもの遊び

大人は“仕事”と“遊び”を別物と考えます。しかし、子どもにとって「遊び」は余暇や楽しみ、生活や仕事と区別するのではなく、すべてが「遊び」の中にはあります。子どもの「遊び」とはどういうものか?「遊び」を通してどのように成長しているかを考えてみましょう。



COLUMN

お人形遊びで脳の活動が活発になり、がまんができる子に

子どもがお人形に世話を話しかけている時、脳の前頭前野が活発化します。誰かにものを教える行為は自己制御(がまん)を育むことになり、お人形遊びでも効果が見込めます。



さわると気持ちよく、水をませると固まる“砂”はお山やお城づくりなど、何でもできる最高のおもちゃ。素晴らしい遊びです。

ことば、生活習慣、思いやり

人形を赤ちゃんにみたてて、喋りかけるお子さんの姿を見た事はありませんか?子どもは親にしてもらった事を覚え、人形にしてあげる事で自分の力に変えます。

想像力、見立て

お人形遊びには、大人に見えない子どもの世界が広がっています。時には「?」な様子も、ストーリーや意図があって面白いですよ。

HINTO

「お風呂よ」「もう寝る時間よ」など、子どもがなかなか聞いてくれない時は、お人形の声色を使って「一緒に入ろうよ」と誘えば、素直に行動してくれることも。お人形は時に、強い味方になってくれます。

器用さ、力加減

どろだんごを作ろうとするときゅっと握ったり、そっと持ったり、力加減を学び、指先の感覚が育まれます。

想像力、創造力

葉っぱや砂をお料理に見立てれば、想像力や創造力も育されます。お子さんが「これ、ごはん」といったら、「おいしそう」とイメージを共有してあげてくださいね。



鬼ごっこは万能の運動遊び。すべてのスポーツの原型といっても過言ではないでしょう。

体の動き、運動能力

走る、止まる、曲がる、手を伸ばすを繰り返し、運動能力が向上します。

COLUMN

鬼ごっこ
バリエーションや工夫はいっぱい

鬼ごっこには、無数のバリエーションがあります。氷鬼、色鬼、高鬼、増え鬼、手つなぎ鬼、ボール鬼、三色鬼、子とろ子とろ、目隠し鬼…。知らない鬼ごっこのルールは、幼稚園の先生に聞いて遊んでみましょう。

HINTO

公園で遊んでいる子どもに「さ、帰ろう」と声をかけると「今遊んでいるのに!」と泣きだす子もいるでしょう。帰り際を時間で決めるのではなく、子どもが遊びを満喫した頃合いに「楽しかったね、帰ろうか」というと、すんなり聞きいれてくれたりします。ポイントは子どもの集中具合を見極めること。「飽きてきたかな?」というタイミングで、「帰ろうか」と声をかけてみましょう。飽きすぎると、次の遊びに移ってしまうので要注意です。

社会性

鬼の番や遊び場を決めたり、小さい子用にルールを作ったり、友だちとのやり取りで社会性が育れます。

考える力、コミュニケーション

どこに逃げる? 誰が鬼? コミュニケーション力が自然に身につきます。

えほん

想像力

絵本と言えば、想像力の育成は言はずもがなです。登場人物に感情移入し、めくるめく絵本の世界をお子さんと一緒に旅してください。

語彙・表現の豊かさ

言葉を覚え、表現することの楽しさを覚え、感情も豊かになります。

同じ本を繰り返し読むことが成長につながる

子どもは「飽き」の感覚や「先を知っている」事の楽しさが大人と違います。また同じ本?と思わず何度も読んであげましょう。特に2~3歳児は、いろんな本を読むより、同じ本をくり返し読むことが大切。気がつけば、お気に入りの本の言葉や表現を日常会話で使う姿が見られるはずです。

絵本は、日常、非日常ジャンル問わず様々な世界に誘ってくれる、大切な遊びです。

指先の巧緻性

ぐるぐる、ぐちやぐちや…。乳幼児期のお絵描き、これでいいの?それでいいんです。子どもたちは手の動かし方を学び、考えています。そのうち線が繋がり、丸が描け、顔のように見えてきます。

表現力、想像力、創造力

ぐちやぐちやに描いて「これ、うさぎさん」と同意を求められたことありませんか。子どもには、広がる世界が見えています。幼稚園に入るまでは「本当だね」とイメージが伝わる喜びを感じさせてあげてください。

お絵かきは、親子の大切なコミュニケーションツール

色彩感覚、空間構成、お絵描きによる成長は数えきれません。子どもにとってお絵描きはコミュニケーションツールでもあります。絵ができると「できた、見て」と見せてくるでしょう。大人の返事次第でどんどん上達します。紙を渡して「お絵描きでもしてなさい」ではなく、「親子一緒に」楽しみましょう。

**ASOBI
ha
EIYO**

お絵かき

紙とクレヨンさえあればどこでも楽しめるお絵描き。最近は水で落ちるクレヨンもあり、道具も豊富。

どうですか?子どもの奥深い「遊び」の世界。

ここに書いてあるのは、ほんの一握り。計り知れない力を育てているのが、子どもの「遊び」なのです。遊びの意味を理解し、上手に付き合うことで、子どもとの生活がもっと楽しくなりますよ!

COLUMN

こころのねっこママの座談会

「うちの子、よその子、子育てのこと。いろいろ聞いてみたいっ!」

うちの子は順調に成長してる?生活リズムやコミュニケーションは今まで大丈夫?そんなママたちの本音トーク。

幼稚園に通う子どもの様子、親の思い

《入園のBefore & After》

ちづ「子育てをする前と変わったことってある?」
ゆか「前と比べたら全く違うよね」
ちづ「私は去年、長女が満3歳で幼稚園に入って10年ぶりに赤ちゃんがない生活になった」
ゆか「私も、幼稚園に一人で行ってくれるし楽になったわ」
ちづ「ゆかさんは、保育園に行ってたのよね」
ゆか「うちの長女は、11ヶ月から保育園に入れて、2人目を妊娠した時に仕事を辞めて幼稚園に3年保育で移った。保育園と幼稚園の差はすごく大きくて時間が短くなって衝撃でした。以前は、6時までは私は子育てしてなかったのに…もう帰ってきたのうそ!?みたいな(笑)」
いずみ「預かり保育とかで夕方まで預かってもらえないんですか?」
ゆか「最近は幼稚園で5、6時まで預かってくれる園があるけど、子どもの生活リズムを考えたら、長く預かってもらえたらしいってことでもなく、親が子どもと関わる時間も大切だと思う」
ちづ「確かにそうね」
ゆか「幼稚園って保育園とは預けるコンセプトが違いますもの」
ちづ「うちも満3歳児で入って、最初は午前保育の時期もあって自由な時間はそんなに増えなかったけど、それでも精神的に楽になった。きょうこさんは、ずっとお子さんとお家にいる感じですか?」
きょうこ「主人の実家が歩いて10分くらいなので、一緒に遊びに行ったり、子どもだけ預けたりします」
ちづ「おじいちゃん、おばあちゃんが近くにいるのは助かるよね~」
ゆか「もうすぐ幼稚園?満3歳児保育にいれるんですか?」
いずみ「幼稚園に遊びに行くのは好きみたいで安心しています。週に一回、未就園児クラスに朝2時間だけ親も一緒に行くけれど、順番待ちができないとか、一人走り回ったりしてると心配で…」
ちづ「堂々としてたらしいじゃない!(笑)」
いずみ「みんなに見られて恥ずかしいんですけど、でも長女は楽しいみたいなんで」

《きっとある、わが家にぴったりの幼稚園》

きょうこ「みなさんはどうやって幼稚園を選んだんですか?」
ちづ「児童館等で色々な幼稚園に行っているママ友の話を聞けるけど、うちは主人が子どもの時に通ってた幼稚園にお世話になったの」
きょうこ「親子で同じ幼稚園って素敵ね。ネットの評判や情報誌とともに見るけど、ママ友とか実際に通ってる人から話を聞くと参考になりますよね」
ちづ「未就園児向けの親子教室や園庭開放で、気になる幼稚園に行くのも雰囲気が分かっていいわよ」
ゆか「幼稚園は保育園みたいに希望したところ以外に回されることがないので、自分がここと思ったら、基本入れるもんね」



《入園後の涙。それも成長の証》

いずみ「実際に入園されて、お子さんどうでした？」

ちづ「入園前にプレスクールも行って、楽しそうに遊んでたから馴染んでくれると思ったら門のところで、うわ～いや～!!って大泣きされて」

ゆか「うちもあったよ～、ずっと泣いてた」

ちづ「でもお迎え行って先生に聞くと、5分くらいでケロッとして遊んでたって。また明日も行くって言って帰るけど、次の日行くとまた…」

ゆか「一回寝たらまたね～(笑)」

ちづ「それが、1週間目ぐらいでやんて後は一回も行きたくないって言わなかつた」

いずみ「そんなにすぐに慣れちゃうんですか？」

ちづ「その子によると思う。ふっと気持ちが切り替わるタイミングがあるみたい。幼稚園の先生は最初に泣く子ほどかって慣れるのも早いって言ってた。いずみちゃんは何か心配なことない？」

いずみ「幼稚園に入る前にいろいろ教えておかないといけないと思うんですけど、私と子どもだけだったら、まあいいかなって子どもを怒れなくて。だから、幼稚園に行ってから先生に迷惑をかけないか心配です。幼稚園って、おむつが取れてからとか、できることが増えてから行くイメージがあって、おむつが取れない状態で行って大丈夫かしらと不安はあります」

《おむつが取れない…》

ゆか「うちの長男は、おむつが取れないまま年少に上がろうとしてます(笑)」

ちづ「うちも、次男も長女もおむつ取れないまま、満3歳児保育に行って、行きかけたら取れたわ。

でも、個人差はあるし。ゆかさんの長男くんは、お家では自分でトイレに行きたくない感じ？」

ゆか「うん、おむつが取れるのは幼稚園のクラスで一番最後かなってドキドキしてる」

ちづ「年少さんだったら、おむつ取れないまま入園して来る子もいると思う」

ゆか「上の子が女の子のせいか苦労なくおむつが取れたので…、下の男の子はどうしたらいいかわからない」

きょうこ「トイレトレーニングとか？」

ゆか「それがいい加減で、あまりやらないせいもある(笑)。朝とか寝起きに連れて行ったら出るけど、自分からは言わないですね」

ちづ「トイレトレーニングも個性が出るね。そういうことも幼稚園に入ってから覚えていく感じかな」

ゆか「うちは何もできないまま、入園しました(笑)」

いずみ「幼稚園から『できるようになってから来て下さい』とか言われたりしないんですか？」

ゆか「うちの園ではあんまり言われなかった。担任の先生が、今日は初めてトイレでおしっこしましたとか、お弁当を自分で食べたんですよとか、幼稚園での子どもの様子を伝えてくれるし、連携しながら少しずつ家でも自分でできることを増やしていきましょう、って感じかな」

《入園は何歳から？》

いずみ「幼稚園は2年、3年、満3歳児保育とか選べますが子どものことを考えたら、私が家にいて子どもがしっかりしているわけでもないので幼稚園にいれるってどうだろう？と思って…」

ちづ「幼稚園って保育園と違って預けるための理由

がなく、入れるタイミングは親が決める。この子にはまだ早いかなと迷いますね。うちの長男は元気で3歳ぐらいからずっと付いて遊ぶのが大変で、朝家を出ると夕方まで帰らない…」

ゆか「え～！ムリ！！」

ちづ「今から帰ってどうするのよ!?って泣いて暮らしてた時期があって。一番上の子だから、「お母さん見て、一緒にやって！」という感じで他に何もできなくて、幼稚園の満3歳児保育に行くことにしたけど、初めのうちは子どもが大泣きする姿を見て、私の勝手で入れて辛い思いさせたかな、ごめん…とかありましたね」

全員「う～ん」

ちづ「でも担任の先生がしっかりと受け止めて丁寧に関わってくださったおかげで、長男は幼稚園生活を楽しんでくれて。親も子も、生活の質が上がった気がします。きょうこさんはいつからとかありますか？」

《未就園児クラス、という選択もあり》

きょうこ「うちは4月から、週一回の未就園児クラスで午前中2時間だけ親子登園しようと思っています」

ちづ「一緒に過ごす感じですか？」

きょうこ「幼稚園によっては預けて後でお迎えにくる

参加したママの PROFILE

ちづ／38歳。長男(10歳、小学4年生)、次男(6歳)、長女(3歳)。縫い物、子どもと仕事をすることが好き。

ゆか／41歳。長女(6歳、小学1年生)、次男(3歳)。幼稚園のバレーボール部に所属し、楽しんでいる。

きょうこ／30歳。長女(2歳)、4月に男の子を出産予定。もうすぐ引っ越しをするので、断捨離にはまっている。

いずみ／31歳。長女(2歳)、長男(6ヶ月)。ほとんどで家で子どもたちと過ごしている。「一日無事に終えて、夜静かに寝れたら嬉しい」

とか、いろんな形があるみたい。子育て支援の一環でやってるので、その幼稚園に入る人が多く、ほかに行ってもいいですよっていう形。今まで娘と二人で児童館とか行っても親から離れない。本当は活発にもまれて欲しいけど、うちの子は離れてなくて。親子登園だと安心して、ちょっとずつ自分の世界を広げてくれたらしいなと思いながらも、友だちができるのかな？」

ゆか「小さいちは友だち、できないと思いますよ」

ちづ「大人が思う友だちっていう感覚じゃないよね。同じ空間で遊んでるけど別。隣の子が別のことをしていても一緒に遊んだって言ってる。“何々ちゃんおまごとしようよ～”とか言えるようになるのは年中さんとか?年長さんでも怪しいよね」

ゆか「怪しい怪しい(笑)。意志の疎通ができるときあるもの」

ちづ「同じ空間で、ほかの子もなにかをやっていて、見てるだけでも十分いいみたい」

ゆか「そうそう、それだけでもいい刺激になってると思う。そこから徐々に意識が芽生えてくるって感じですよね」

きょうこ「そうやって子どもが成長していく姿が見られると思うと、楽しみですね」



おとうさん、おかあさん いっしょにあそぼうよ。

今、幼稚園ではこんな遊びを楽しんでいます。

時間を見つけて一緒に遊んでみませんか。

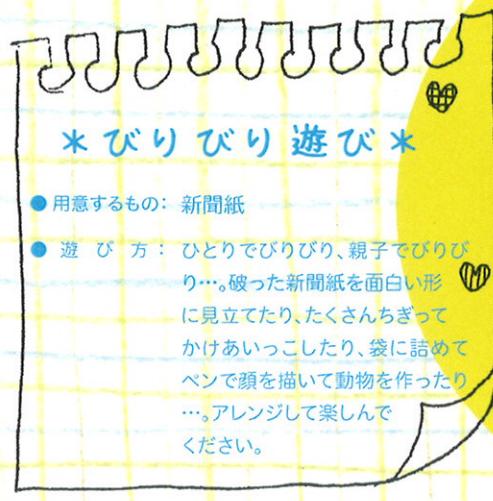
遊びを通じて、子どもたちの“こころのねっこ”はぐんぐん育ちます。



* マラカスづくり *

- 用意するもの：空のペットボトル
キャップを止めるテープ
ビーズ・ドングリなど
※100円ショップ等でもお手軽に
中に入れる材料を購入できます。

- つくり方：①ペットボトルに材料を入れる。
(材料と一緒に水を入れると、
振った時の動きが変わって楽しめます)
②キャップを強く締め、テープでとめる。
(子どもが遊んでいるとキャップが
緩んでいくことがあります)
③ペットボトルに絵を描いたり、紙を
貼って飾るときれいに仕上がります。



- 用意するもの：新聞紙

- 遊び方：ひとりでびりびり、親子でびりび
り…。破った新聞紙を面白い形
に見立てたり、たくさんちぎって
かけあいっこしたり、袋に詰めて
ペンで顔を描いて動物を作ったり
…。アレンジして楽しんで
ください。



* 親子たいそう *

おすすめえほん



ぞうくんのさんぽ
作・絵：なかのひろたか
レタリング：なかのまさたか
出版社：福音館書店



どうぞのいす
作：香山 美子
絵：柿本 幸造
出版社：ひさかたチャイルド

うさぎさんが“どうぞのいす”を作りました。その椅子を見つけたろばさんはドン
グリをおいてお休み中。あれこれ目を覚ますとどんぐりが…。ろばさんのドングリ、
いったいどうなってしまうのでしょうか。

●余韻を楽しませてあげて

読み終わったから次のページに移るのではなく、
そのページを満喫したら次のページに移りましょう。
お話によっては脚色してみてもいいですね。

●子どもにとって見やすい目線で

読み手の目線ではなく、子どもにとって見やすい
目線になるようにしてあげてください。膝の上で、向かい
合って、椅子を使って…いろいろ試してみてください。

●お話の終わりはどこ？

絵本を閉じればお話は終わり？読み終えたあと、
お話の続きをしたり、身の回りのもので“〇〇のいす”を
作ったり、そんな+αがお話の世界を広げます。

●“子どものことば”を大切に

絵本を読んでいると子どもたちは、つぶやきを発します。
それは、その時々の“心の言葉”。耳を傾け、子どもの
世界を広げてあげるのも読み手の役割です。

幼稚園のこと、もっと知りたい!

Q:私立幼稚園の保育料は高いのでは?

ご安心ください!京都には全国トップレベルの補助金制度があります!

■私立幼稚園就園奨励費補助金(平成28年度実績)

対象者	在園児が何番目に当たるか(ただし兄姉の上限は小学3年生)		
	第1子	第2子	第3子
生活保護世帯	308,000円	308,000円	308,000円
市町村民税非課税世帯・市町村民税所得割非課税世帯	272,000円	290,000円	308,000円
市町村民税所得割課税額77,100円以下	115,200円	211,000円	308,000円
市町村民税所得割課税額221,200円以下	62,200円	185,000円	308,000円
市町村民税所得割課税額が上記以外の世帯	—	154,000円	308,000円

年収680万円以下の世帯で、
お子さんが3人の場合
(3人とも18歳以下)
一番年下の在園児の
保育料は、**ほぼ無償**

全国初!

お子さんが2人の場合
(2人も小学3年生以下)
年下の在園児の保育料は、
所得制限に関係なく**ほぼ半額**



お子さんが3人の場合
(3人も小学3年生以下)
一番年下の在園児の保育料は、
所得制限に関係なく**ほぼ無償**



※満3歳になった月から補助対象になります。

※教材費補助等の名目で、対象区分外でも補助したり、増額したり、3~5歳児で差を設けたり市町村独自の補助制度を付加している地区もありますし、国の基準通りの市町村もあります。また国の基準に満たないところもあります。

※施設型給付を受けている幼稚園の場合は、上記補助金制度と異なります。

※詳しくは、自治体または各幼稚園までお問い合わせください。

Q:働いていても 幼稚園を利用できますか?

平日も、夏休みなども「預かり保育」を実施している園もあります。
詳しくは園に直接お問い合わせください。



平日の
預かり保育実施率
99%

※平成27年度調査

Q:毎日お弁当を作らないといけないの?

多くの幼稚園で給食が導入されているのでご安心ください!



おいしい
給食が
あります!

給食
実施率
95%

※平成27年度調査

“我が子をきちんと育てなければ”

そういう思いで、様々な情報を集めていいお母さんになろうと

努力することは大切なのですが、最近の知見では、

“子どもは育つ力を持って生まれてくる”と考えられています。

持っている力をうまく引き出し育むには、

いい大人に出会い、いい環境に出会うことが必要です。

子どもは育つのです。育てなければ親が力を入れるほど、

子ども自身で育っていく力は萎えてしまいます。

力を抜いて、にこにこ笑顔で子どもの表情を見てください。

子ども自身が伸びていく為に必要な様々なサインを送ってください。

そのサインを読み取る余裕が最も大切です。

京都の私立幼稚園は、すべての子どもの教育の支援を行っています。

素敵な先生が、素敵な園庭を整えて待っています。

入園前でも私立幼稚園を子育てのヒントを得る場所として

活用してください。待っています。

京都府私立幼稚園連盟 理事長

田中 雅道